

教務だより

2011年12月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

今が君の一番星！

茗溪塾 宇野雅春

受験生は、いよいよ大詰め段階に入ってきました。いつもなら、友達と遊びに行くだろう休日にも勉強のスケジュールがぎっしり入っていて毎日毎日がなんだかつらいという人も多いと思います。また、なかなか解けない問題に悶々としている生徒もいると思います。

大人の仕事でもそうなのですが、「苦しい」と感じているときは、実は伸びているときで、ラクラク楽しいというときは、後退局面だという事がよくいわれます。

山登りと同じで、上りは苦しく、くだりは楽という事なのでしょう？

一生にそう何回も「受験」があるわけではありません。それと同じで、自分が伸びるという経験も、日常茶飯事的にあるわけではありません。何かのきっかけで人は一つのことに熱中し、その経験の中で「自分が変わる」という体験をします。子供が大人になっていくときには、絶対必要な経験ではあります。多分、受験を抱えた今の時期は大切な時期なのだと思います。そして、とらえようによっては「目標に向かって進む本気の時」であり、後で振り返ったときに「心に残る体験」なのだと思います。かつて、受験に人生の岐路を実感し、合格発表を見た後にこの時の心境を「今が自分の一番星」と表現した生徒がいました。星の中ではじめに見える輝く星＝一番星を「合格」に例えたのだと思います。

先日受験生の「合同特訓」が6か所で行われました。どの教室でも、真剣に集中する姿が見られました。私達講師にとっては、実はこの時期が一番充実しています。生徒が真剣に取り組んでくれている、そして大切なその時期をともに頑張れる「充実感」と「喜び」がそこにはあります。ただ、実際は楽なことではなく、ここからは日毎に仕事は厳しくなります。早朝から深夜まで気の抜けない日々が続いていきます。思うように成果が出なかったり、小さなトラブルにあう事もありますし、仕事は皆そうだと思いますが、余裕のない日々を続けることは、楽しいという言葉とは程遠いものです。最後には、厳しい合格発表という試練が待っています。でも、「合同特訓」や「志望校別特訓」そして日々の授業のある場面で、生徒の変化や成長に触れた時、「喜び」が心を覆います。眠れないくらい何もかもうまくいかないときもありますが、ただそれは、いつまでも続くわけではないという事が、やっと最近分かってきました。「良い日」もあれば「悪い日」もあります。努力を続けていると、必ず「良い日」がきます。ですから、もし悪い方にばかり考えて、自暴自棄になっている人がいたら、ここはもう一度「自分なりの努力」に向かいましょう。

自分が変化するのに早い遅いはありません。受験生はまだ人生のほんの入り口にいるにすぎません。自分を変えようという事に臆病になったり、どうせ今更駄目だとあきらめないことです。受験本番にどういう気持ちで臨めるかが勝負なのです。

去年、全くやる気のなかった生徒が冬期講習でガラッと変わった例がたくさんありました。先生たちの間でその「変化」が驚きをもって話題になりましたが、受験ではそれなりに成功しています。受験直前だから仕方なく勉強したというのではなく、本人が変わったという事です。学ぶことの喜びや、自分にとっての受験を本当に意識したという事です。これは誰にでも可能というものではありません。それなりの成績をとっていても「やらされている勉強」では本当の成功とはいえません。受験では実現できなかったとしても、多分だれもが人生のどこかでこの成長と変化は経験するはずで、「成功」というものはその時初めて手に入るものだと思います。心が変わる…自分が伸びる…そこが重要だと思います。君の一番星が必ずそこにはあるはずで